

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年6月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500265		
法人名	株式会社くれせん		
事業所名	グループホームすまいる焼山		
所在地	広島県呉市焼山東1丁目19番47号 (電話) 0823-33-7373		
自己評価作成日	6月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成26年6月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者の生活リズムを整えることを考え、一日の時間の流れ、月日の移り変わり、季節の移り変わりを感じられる環境づくりに力を入れています。その中でご自分でできることは積極的に取り組めるようサポートしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームすまいる焼山は、まだ開設して1年が経過したばかりで団地の奥側に位置し建物後方は自然に恵まれ静かな所に位置している。近隣には、幼稚園があり併設のディサービスセンターとの交流があり今後グループホームでの交流も考えている。事業所理念「自然に囲まれた静かな環境と家庭的な雰囲気作りを心がけ安心して暮らせる施設」を掲げ実践している。また、施設コンセプトとして「安全・安心・家族に成る」をモットーとし利用者に接している。アセスメントを十分に行い、日常のケース記録をもとにケア会議・担当者会議で実施状況を確認・評価し、利用者の意向を大切に現状に即した介護計画に基づいたケアが実践されている。家庭的な環境の下で入浴、排泄、食事等の介護、その他日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援している。</p>
--

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自然に囲まれた静かな環境と家庭的な雰囲気作りを心がけ安心して暮らせる施設」を掲げている	事業所理念「自然に囲まれた静かな環境と家庭的な雰囲気作りを心がけ安心して暮らせる施設」を掲げ実践している。また、利用者により家庭的な雰囲気で地域に密着した施設作りをめざし、ユニットごとの理念を作成する検討をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の散歩をほぼ毎日実践、回覧板の交流	自治会に入っており、回覧板等による交流をしている。また、塗り絵・手芸・貼り絵の作品を制作し、昭和支所にて掲示して地域の方と交流している。近隣のホームセンター・スーパーに出かけ、地域の方と挨拶し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	開設説明会の開催や、運営推進会議を通し、自治会や民生委員、老人会に情報を発信している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一回開催し事業所の報告をしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、自治会長・地域包括支援センター・民生委員・家族代表・利用者代表・管理者・職員が出席し事故・ヒヤリハット等の報告・行事予定・状況報告等が行われ参加者と意見交換等している。	今後近隣の幼稚園や学校・消防署・警察署等に運営推進会議の御案内をし参加して頂くように期待いたします。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	呉市担当者とは開設前から各種相談を行い、書類の提出時等に相談することがある	運営推進会議時や困難事例等現状や運営について報告相談を行い市の理解と協力を受け助言や適切なアドバイスを頂いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	契約時の書面による説明と啓示。拘束にあたる事例はない	年間研修計画で身体拘束がもたらす弊害・禁止の対象となる具体的な行為を学んでいる。参加できなかった職員には伝達研修を行っている。朝礼時に日々のケアについて話し合うと共に見守りの徹底等、身体拘束をしないケアを周知している。又、玄関は安全面に配慮しながら、日中は施錠せず利用者の外出の気配を感じた時職員がさりげなく付き添って外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会の開催		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の開催		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の書類作成		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置、担当窓口を決め対応している	家族来訪時・電話連絡の時に近況報告をし、普段の様子から質問や相談をお聞きする時間を持つようにしている。家族からの意見をノートに記録し個々に対応し運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回程度ケア会議を通して意見交換をしている	毎月のミーティングや日々のケアの中で職員のお一人お一人の意見や提案を聞き検討し、発言しやすい環境作りが作られていて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇い入れ通知書面にて提示している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各研修会への参加要請、費用を負担している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	呉市主催の集団指導研修へ参加		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	自宅訪問を含め生活環境を確認すること、本人・家族等へのヒアリングを実施している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活上必要な作業を一緒に取り組んでいる		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	訪問時に声掛けを実施		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会者や問い合わせに対応	アセスメントの内容を参考に利用者のこだわりを大切に実現に向け出来るだけ支援している。地域社会との交流が途切れないように家族の支援を頂きながら、外食に行ったり、墓参りに行かれたりして関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共用部で過ごす時間を設け交流を促している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事例が少ない		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の声に耳を傾けストレスのない環境づくりを心がけている	利用者の習慣や思考を把握し本人と話し合い本人の意向、希望を第一に考えている。思いを伝えられない利用者には、表情や反応で確認しながら利用者本位の視点に立った支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	訪問調査、ヒアリングを実施		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	同上		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケア会議、担当者会議を実施	アセスメントを十分に行い、日常のケース記録をもとにケア会議・担当者会議で検討し、利用者の意向を大切に介護計画を作成している。状態変化時には随時見直しを行っている。日常の業務の中で職員一人一人が考える力の重要性を意識して利用者の生活の質の向上に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌 ケース記録を活用		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人のニーズに合わせた計画を立てている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の施設の活用、公園等へ外出し楽しみを見つけたサポートを実施		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に一度往診を実施	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、かかりつけ医の選択をして頂いている。歯科・皮膚科や耳鼻科のかかりつけ医の受診支援も適時行われ医師や家族への必要な利用情報の提供も行われている。月に1度内科の協力医の往診があり適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと連携週に一度の訪問		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の情報交換や退院時の看護サマリの活用		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事例はまだないが、契約時に書面にて家族に説明	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に説明している。まだ事例はないが、実際に重度化した場合は、利用者、家族の希望を聞いたり医師・職員と連携をとりながら、事業所でできることを十分に説明し方針を共有しながら看取りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	開設時に勉強会を実施		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	慣れることから言葉かけが雑になりがちなため、指導を続けている	スタッフ会議や研修で尊厳を大切に言葉使いや対応について話し合い、常に利用者からの声や、表情、態度、行動の情報を見逃さないようにし誇りやプライバシーを損ねないように注意し対応している。	年間計画にプライバシー保護についての研修を組み込み、随時不適切な言葉等が生じた場合はミーティング等で話し合い、改善する事を継続する事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	定期的に本人の意見を個別に聞けるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活リズムが崩れない程度に本人の決定を支持している		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の確認や定期的な美容院等の利用を促している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る部分取り組みやすいよう実施	業者が食材を持ち込み不足分や嗜好品等を近隣のスーパーに買い出しに行き職員が手作りで調理している。利用者は、職員と一緒に食材のぎざみや豆のすじ抜き、テーブル拭き・盛り付け・配膳・下膳・マットの拭き取り・御膳ふき・食器洗い等している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	計画的な献立と安全な食事形態を提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後のケアをはじめ訪問歯科医を利用			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中と夜間の対応方法を変えたり、ポータブルの活用を行い支援している	利用者それぞれの排泄パターンを記録して把握し、誘導やケアのタイミングを図り各人に合わせた介助に取り組んでいる。夜間対応もできており、快適な排泄の自立に向けて柔軟に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の確認と水分補給や運動を促している			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ある程度の予定は組んで対応しているが、体調や気分に応じて対応している	利用者の希望や身体状況に応じて週3回実施している。対応の難しい方には足浴・清拭の支援を行っている。入浴拒否のある方には無理強いないせず、時間をずらしたり声掛け、スタッフを変えてみたり他の日にしたりと対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	環境の整備と声掛けを実施			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、薬剤師と連携し対応している			

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の趣味や好みを聞き、用意できるものは用意している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外食、お花見等へ出かけている	日常的に車椅子や徒歩で近隣への散歩をしている。車でドライブがてらお花見に黒瀬に行ったり、スーパーやコンビニに買物に出かけている。また呉市内のショッピングセンターの回転寿司や、食事処・音戸のレストランへ食事に出かけている。敷地内の畑でホウレンソウやさやえんどうを栽培し収穫してしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人用のお金を預り対応、一緒に買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	郵便物の受け渡し支援や手紙のやり取りを支援している		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	設計時より配慮し整えている	共用空間は採光も良く、明るさ・音・湿度・音等きめ細かな配慮がとられている。また季節の花や生け花や職員と共に作られた季節の折り紙の作品等飾り付けられ明るく清潔感のある空間作りがなされ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分は時折模様替えし、対応している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人に合わせて家族に整備をお願いしている	馴染みのタンス・鏡台・テレビ・仏壇・孫の写真・家族の写真・花机・CDカセット等持ち込まれ利用者が今までの生活が落ち着いて居心地よく継続できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	調理や作業に皆が取り組みやすい環境を提供		

グループホームすまいる焼山

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームすまいる焼山

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

グループホームすまいる焼山

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすまいる焼山

作成日 平成 26年 7月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	優しい言葉がけが馴れ馴れしい言葉がけになりがち	尊厳のある言葉がけを行う	申し送り時に注意し、職員同士が気を配る	3ヶ月
2	34	職員一人一人の対応に不安が多い	定期的な勉強会や外部研修を受講できる環境を作る	勉強会、研修の計画を立てる	3ヶ月
3	19	家族への状態報告が密に出来ていない	ホームでの日々のご様子を記録していく	行事だけでなく日常の姿を写真等に記録し定期的に報告する	3か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。